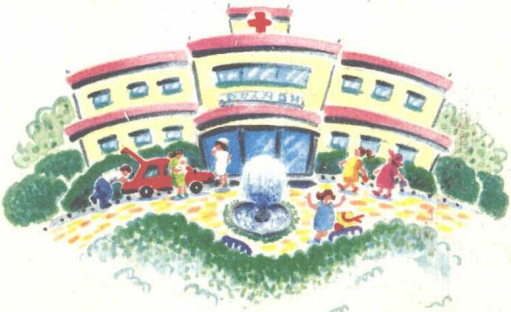
産婦人科の



ヨメハン日記

後藤田みどり

たま出版

産婦人科の
ヨメハン日記

平成7年7月25日　第1刷発行

著者
後藤田みどり

発行者
瓜谷侑広

発行所
株式会社たま出版
〒169　東京都新宿区西早稲田3-13-1
03（3202）1281（編集）
03（3202）1881（営業）
振替　00130-5-94804

印刷所
株式会社ミツワ

© Midori Gotoda 1995

ISBN4-88481-824-5 C0295

¥950−

産婦人科の
ヨメハン日記

後藤田みどり

装画　すずきふみえ
装訂　たま装訂研究室

産婦人科のヨメハン日記＊目　次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

弛緩性出血／9
妊娠亜阻／16
双生児誕生／23
巨大児出産／30
ニャンコの入院／37
不倫の結末／46
子宮外妊娠／53
妊娠判定／60
卵巣嚢腫／66
六つ子誕生／71

処女懐胎／78
看護婦の結婚／88
墜落分娩／96
膣　炎／103
胞状奇胎／111
先生の病気／119
流　産／126
性的不能／134
更年期障害／142
胎盤早期剥離／150

妊娠中絶／158
膣中隔／164
精液判定／170
妊娠中期中絶／182
見舞い猫／190
子宮脱／202
M先生のこと／212
乳腺炎／226
骨盤腹膜炎／234
膣内縫合／243

子　癇／249
胎盤用手剥離／259
不妊症／269
子宮癌／277
難産は神代の昔から／286
膣痙攣症／294
水子供養／302
あとがき

弛緩性出血

×月×日

二号室の患者さん、陣痛が起きて今日で三日目。まだ生れない。先生は気の長いのんびり屋だが、そろそろいらだっています。助産婦さんだけが落ち着きムード。

「今日もお産は夜中だぞー。」

あ、またか！　判っちゃいるけどたまらない。人間一生の内、人のお産に立ち合うのは身内、それも自分の孫の御生誕の附添いか、姉妹の時位、多い人で十回か二十回位のものでしょう。何の因果か私ときたら年がら年中……。軽いお産は嘘のように出来ますが、重いお産は文字通り生命がけです……。他人様（ひとさま）の事ながら目の前で見ているとこちら迄生命がけになります。母体が危くなる度に、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

「神様！　私の寿命を縮めてもこの患者さんの命をお救い下さい。」
と、思わず祈らずにはいられません。だから私の寿命も神様のえんま帖では、ずいぶん、短くなっている事でしょうね……。
「午後七時破水しましたが、陣痛が微弱です。」
看護婦をつかまえては、しつこい程容態を聞きます。この陣痛微弱というのがくせ物で、軽いお産程、強い痛みが順調に来て楽に生れます。楽といったってその時は強い痛みに体全体が、突き抜けられる思いがして死ぬ程苦しいものですが……、時間帯が短いだけ本人にとっては楽なお産と云えるわけです。ある喜劇女優さんがテレビのインタビューで「お産についての感想をのべて下さい。」といわれた時こういいました。
「子供を作る時程、楽しくて嬉しい事はありませんが、生む時程苦しくて痛いものは他にございません。もうお産はこりごりです。」
これを聞いた時プッと吹き出しましたが、けだし名言です。一度でいいからこの陣痛というものを世の男性方に味わって頂けないものかしら？　といつも思うのですが……。何故ならこんな苦しい思いをして迄自分の子孫を残してくれる女性に常日頃もっと感謝して下さるであろうし、優しくいたわって下さるだろうと思うからです。

ご本人の体質か？　その時の健康状態かよく判りませんが一向に強くならない陣痛は産婦人科の先生の泣きどころ……。陣痛促進剤を飲まそうが、注射を打とうが一向に霊験あらたかでないものですから、産婦さんは、

「早くお腹を切って出して下さい。」

「もう子供なんかどうでもいいんです。早く楽にして下さい。」

なんて、自棄のやんぱちで叫ぶ訳です。御本人様以上にこちらの方が、あせってくるのですが、いや待てしばし……。

「腹はいつでも切れる。お産の名医とは、待つ事の出来る医者である。」

と、常々おっしゃられた産婦人科の権威、飯田博士の名言を思い浮べては、胸を撫でさするのです。

「やっと赤ちゃんの頭が見えかけました。もうすぐです。」

夜中の十二時……。寝もやらでゴロゴロしている所へ報告がきます。あ、、やれやれほっと一息……。だけど、これにだまされちゃあいけない……。「もうすぐ……。」がまた曲者で、経産婦ならそのお言葉を鵜呑みに出来ますが、初産婦さんはさあそれからが大変……。産道が狭いものですから、赤ちゃんだってそうたやすくは出られません、出たり、引っこんだり

している内に赤ちゃんの頭は、頭の長い長い七福神の一人、福禄寿様みたいになって現し代にお出まし遊ばすのです。

今日の患者さんは、高年の初産婦、その上、普通より少々骨盤が狭いと悪条件が揃いすぎています……。

「どうか、母子無事で生れますように……。一刻も早く産婦さんを楽にして上げて下さい。」

ずっと心に念じつつ、神経を糸のように張りつめているものですから、なかなか眠れるものじゃありません。まだ体を横にしていられるだけいい方で、先生、助産婦さん、看護婦さんは患者さんと一緒にかけ声をかけたり、唸ったり大騒動なんですから……。

時計はついに三時（午前）を廻りました……。突然、廊下をパタパタと走る音。

「奥さん起きて下さい。」

そーら来た。眠ってなんかいるもんですか。心臓がドキンと大きく飛び上ります。

何かあったんだ。ドキドキドキ。落ち着け、落ち着け。自分で自分に云いきかせながら手術室へ飛び込みます。

「オイッ。輸血の用意！　血液銀行へ電話してくれ。B型の人はいないか家族の人にきいてくれ。早くしないと出血が多いぞ……。」

あわてると電話番号の文字がなかなか目に入りません。電話の呼び出し音が長く長く感じられます。

（眠ってないで当直の方早く起きてちょうだい！　早く！　早く！　神様どうか助けてあげて……。）

「患者さんのお母さんがB型です。」

（あゝよかった……。間にあうぞ……。）

「赤ちゃんは大丈夫？」

「ハイ、今人工呼吸をしています。」

（これだから御産は大変なんだ……。一度に二人の命が案じられる。）

「ホギャー！」

（あ、泣いた。泣いた。赤ちゃんは助かった。お母さんの方は？）

「奥さん氷嚢お願いします。」

（あゝ、やっぱり弛緩性出血らしいな……。）

これがまた、やっかいな代物で重いお産の後にはたいがいこれがつきもの……。軽いお産なら、赤ちゃんが外へ出ると、自然の法則に従って子宮は収縮し、元の状態に戻って行きま

す。ところが、御産が長時間にわたって産婦の疲労が激しいと、後陣痛が起らず、収縮しないものですから出血が止らないのです……。産婦は出血多量でショックを起す……。うかうかすると命迄どうにもこの世に止らなくなってしまいます。

冷蔵庫の氷なんてものは、こんな寒い時には滅多に使わないので、無茶苦茶に分厚く凍りついて、とれない、とれない。手が見る見る内に真赤にはれ上ってくるが、寒さなんか感じちゃいられません。

「血液銀行から来ましたあー。」

「夜分御苦労様……。助かります。」

（さあ、輸血が来ましたよ、頑張って……。）

午前四時半……。

「やっと血圧が正常に戻ったぞ……。もう大丈夫！　赤ちゃんの方は元気か？」

「ハイ保育器へ入れてあります。よく泣いて、だんだん元気になって来ました。」

夜明けと共に、やっと人心地を取り戻します……。一同疲れ果てグロッキー……。看護婦さんに

「さあ、一時間でも二時間でも交替で休んで下さい。お世話になりました。」

と、頭を下げます。

午前六時……。

後始末をすませ、ベットにひっくり返りました。ふっと先生の方を見ると、年令の割りには薄く後退をし始めたおつむに、疲れの影を忍ばせて、ゴースカ、ゴースカ高いびき……。

(息子には後を継がせたくない職業やなあ……。)

と、ふっと溜息をつきました。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong